

解説

遺跡周辺で発掘調査は行われてはいませんが、今回の調査で、平安時代から中世を中心とした遺構や遺物が検出されました。

調査は2つの工区に分けて行い第1調査区では、住居の周溝内から、土器が見つかったり、カマドの中から土器と共に銭貨が出土したりしました。調査区2からは、住居跡内で完形の土器が見つかった他、200点以上の土器などが出土しました。また別の遺構からは、武田勝頼が新府城に在城していた頃に流通していた、中国で焼かれた貿易陶磁が出土しています。当時、貿易陶磁はステータスシンボルとして認識されていました。そのため、この周辺に身分の高い人が住んでいた可能性があります。また同じ遺構に石を並べた集石遺構もあり、周囲に廃滓や鉄が付着した鞆の破片が見つかっています。この周辺で鉄の生産をしていたことが考えられます。